

施設園芸農家の新・省エネルギーシステムに対する意識と 導入条件の検討

福井淑子・玖波井邦昭・中村正男

A Survey of Farmers' View on the Energy Conservation and the New Energy Source for Greenhouse Heating and Conditions Required for Induction of Those Techniques.

Yoshiko FUKUI, Kuniaki KUBAI and Masao NAKAMURA

要 約

施設園芸農家を対象にアンケート調査を実施し、新・省エネルギーシステム（省エネルギー技術および石油代替エネルギー技術）に対する意識および導入に必要とされる条件について検討した。

1. 施設園芸において加温燃料費の負担感は大きく、約30%の農家で設定夜温を低下させていた。
2. 現在は[加温機のメンテナンス]、[ハウスの気密性の向上]など低コストの省エネルギー対策が多く取り入れられており、今後は[フィルム増(多層被覆)]、[循環扇利用]および[厚手資材利用]など費用を伴う対策の実施希望が高かった。
3. 新・省エネルギーシステムに対する興味・関心は高く、[栽培面積が大きい]あるいは[経営発展意向がある]農家において特に高い傾向があった。
4. 新・省エネルギーシステムのうち[代替燃料(バイオ燃料・木材)]、[太陽光(熱)利用]および[廃油加温機]など農業以外の分野でも開発が進んでいるもの、あるいは身近に利用実績がある情報量の多いシステムは認知度や興味・関心が高かった。
5. 新・省エネルギーシステムの導入条件として最も重視されているのはコスト低減であり、導入時の重油加温機とのコストの差額が3～5年で回収できる機械・装置の開発が求められた。

キーワード：省エネルギー，石油代替エネルギー，園芸用施設加温，意識調査，導入条件